

## 活動方針の具現化に向けて 全国大会の決定事項を申し入れ

### 海事振興連盟をはじめ、関係省庁や政党へ

第83回定期全国大会で決定された第78年度活動方針書に基づき、昨年の12月22日と23日に、海事振興連盟関係省庁・政党などに対し、全国海友婦人会との共同申し入れを行った。  
申し入れには、松浦満晴組合長をはじめ、関係する各部門の職場委員が参加、そして自由民主党の衛藤征士郎衆議院議員(組合名誉政治参与・海事振興連盟会長)に同行いただいた。



※撮影のためソーシャルディスタンスに配慮の上、マスクをはずしています

衛藤征士郎海事振興連盟会長がご対応

左から 遠藤飾総合政策部長、立川博行政策局長、深川隼輔日本海洋事業職場委員、衛藤征士郎会長(衆議院議員・名誉政治参与)、松浦満晴組合長、池田聡商船三井フェリー職場委員、穴井潤治商船三井職場委員

#### 海事振興連盟

#### 海事振興連盟

組合より、申し入れの重点事項として、「海の日」の固定化をはじめ、海難防止への取り組みと安全対策、新型コロナウイルス感染症への対応、船員の確保・育成の推進、船員養成教育機関の維持・定員拡大、海に親しむ活動、情報通信インフラの整備、海洋資源調査などを要請した。

衛藤征士郎会長からは、各要請事項に対する理解が示された上で、船員と船主が海洋立国の起点、原点であるとし、7月20日「海の日」の固定化は、海事振興連盟の総会決議でも挙げられており、議員立法も視野に入れ取り組みの説明があった。

#### 内閣府

組合より、申し入れの重点事項として、海難防止への取り組みと安全対策、新型コロナウイルス感染症、海に親しむ活動と船員の確保・育成の推進、情報通信インフラの整備などを要請した。

谷公一内閣府特命担当大臣(海洋政策担当)からは、安全対策、新型コロナウイルス感染症対策、後継者の確保・育成など幅広い要望をいただいた。現在、次期海洋基本計画の策定に向けた検討を進めており、その中でも海難防止

#### 防衛省

組合より、自衛隊によるソマリア沖アデン湾での海賊対処行動、中東地域における日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動に改めて謝意を示した上で、引き続きの船員・船舶の航行安全確保のための活動を要請した。

浜田靖一防衛大臣からは、ソマリア沖に初めて海賊対処部隊を派遣した際にも防衛大臣であったことから、本件に関し強い関心を持っており、海賊対処行動の1年間の延長もさせていたと述べている。申し入れ趣旨は理解していることから、しっかりとできる対応を行いたいとの考え方を示された。

#### 農林水産省

組合より、申し入れの重点事項として、海難事故の撲滅と安全な漁業労働環境の実現、わが国の漁船漁業による漁業生産量の拡大、日本人漁船員の後継者確保・育成対策、情報通信インフラ整備などを要請した。

野村哲郎農林水産大臣より、わが国の水産業とその発展、それを支える漁船員への謝意が示されたほか、後継者の確保・育成は一次産業にお

#### 総務省

組合より、若年船員の定着率向上や後継者確保の観点からも、情報通信インフラ整備の必要性を説くとともに、現行の洋上投票制度の問題点やインターネット投票システムの進捗状況、住民税減免措置の拡大に向けた支援の要請に加え、直接的な所管官庁ではないものの、経口抗ウイルス薬の船内設置に向けての対応について協力を要請した。

松本剛明総務大臣からは、海運業・水産業は日本経済を支える重要な産業であるとの認識と、海上で働く船員への謝意が示され、衛星コンステレーション(通信の遅延時間が短い中・低軌道に多数の衛星を配置、連携させ一体的に運用を図るもの)について説明があり、国として今後も技術的な開発への支援などを通じてサポートしていきたいと述べた。

また、住民税減免については、船員の誘致にも繋がることから、自治体の裁量により

#### 自由民主党

実施していただきたいとし、洋上投票制度については、本制度の活用に向けた広報や周知が必要であり、対象となる船員に不利益のないように対応したいとの考え方を示した上で、インターネット投票システムにおいては、選挙区や本人の特定方法などの問題点が挙げられた。

組合から、申し入れの重点事項として、海難防止への取り組みと安全対策をはじめ、経口抗ウイルス薬の船内設置に向けた対応を含め、新型コロナウイルス感染症への対応、情報通信インフラ整備、海洋資源調査などについて要請した。

上川陽子幹事長代理からは、海難防止への取り組みと安全対策は、事故を未然に防ぐべく必要なことであり、重大な事故に至ることのない仕組みづくりに取り組んでいきたいとした。

また、経済安全保障の観点からも、船で働く船員は必要不可欠であり、新たな担い手確保のために、自身の経験からも幼少期の体験が重要だと考えている。「海の日」の固定化や海に親しむ活動を推進していきたいとの考え方が示された。

衛藤征士郎衆議院議員からは、全項目の要望をしっかりと受け止めていただき、今後の政策に反映できるように対応していただきたいと要請した。

内閣府



※撮影のためソーシャルディスタンスに配慮の上、マスクをはずしています

谷公一内閣府特命担当大臣（海洋政策担当）がご対応

左から 遠藤飾総合政策部長、立川博行政政策局長、深川隼輔日本海洋事業職場委員、松浦満晴組合長、谷公一内閣府特命担当大臣（海洋政策担当）、衛藤征士郎衆議院議員（名誉政治参与）、池田聡商船三井フェリー職場委員、穴井潤治商船三井職場委員

防衛省



※撮影のためソーシャルディスタンスに配慮の上、マスクをはずしています

浜田靖一防衛大臣がご対応

左から 立川博行政政策局長、穴井潤治商船三井職場委員、深川隼輔日本海洋事業職場委員、松浦満晴組合長、浜田靖一防衛大臣、衛藤征士郎衆議院議員（名誉政治参与）、池田聡商船三井フェリー職場委員、遠藤飾総合政策部長

農林水産省



※撮影のためソーシャルディスタンスに配慮の上、マスクをはずしています

野村哲郎農林水産大臣がご対応

左から 立川博行政政策局長、高橋健二水産局長、松浦満晴組合長、野村哲郎農林水産大臣、衛藤征士郎衆議院議員（名誉政治参与）、深川隼輔日本海洋事業職場委員、遠藤飾総合政策部長、釜石隆志水産部副部長

日本人船員の確保・育成は急務（大会決定事項を申し入れ）

魅力あふれる船員の職場へつなげる



※撮影のためソーシャルディスタンスに配慮の上、マスクをはずしています

松本剛明総務大臣がご対応

左から 遠藤飾総合政策部長、大井康平東海汽船職場委員、衛藤征士郎衆議院議員(名誉政治参与)、松本剛明総務大臣、松浦満晴組合長、寄木大輔日本郵船職場委員、深川隼輔日本海洋事業職場委員、立川博行政策局長

総務省



※撮影のためソーシャルディスタンスに配慮の上、マスクをはずしています

上川陽子幹事長代理がご対応

左から 遠藤飾総合政策部長、立川博行政策局長、深川隼輔日本海洋事業職場委員、衛藤征士郎衆議院議員(名誉政治参与)、上川陽子幹事長代理、松浦満晴組合長、穴井潤治商船三井職場委員、池田聡商船三井フェリー職場委員

自由民主党

【金子友貴広通信員】昨年の12月23日、東北地方支部は女川町へ、第83回定期全国大会の決定事項である、船員の住民税減免の実施ならびに海に親しむ活動の推進、離島航路への支援措置、海洋プラスチックごみの対応などについて申し入れを行った。

申し入れでは、須田善明女川町長、阿部豊企画課課長、阿部清人産業振興課課長が対応し、高橋雅幸東北地方支部長より、申し入れ文書を手渡した。

須田町長は、申し入れの趣旨は理解できるとしながらも、船員の住民税減免については、他業種との兼ね合いや女川町として減免あるいは減免以外の施策について研究・検討が必要であるとした。また、離島航路については、出島架橋の供用開始に向け、離島航路は必要であるとの考えのもと、諸対応を行っていきたいとの考え方を示した。プラスチックごみの海洋流出防止と海に親しむ活動については、女川町として啓蒙活動を継続していくとの考えを示した。

高橋地方支部長より、船員税制が現在6つの自治体で実施されていることを紹介したうえで、船員税制に対する前向きな検討を要請し、出島架橋と既存航路との共存については、協議会において前広に意見交換や情報共有を図る必要性を訴え、女川町としての対応を求めた。

女川町へ申し入れ

## 出島架橋建設に伴う既存航路存続について

全国発信記事

東北地方支部 = 発信



須田善明女川町長(左)と高橋雅幸東北地方支部長(右)

## 2024年完成予定の出島架橋

これまでシーパル女川汽船の現場組合員の仲間たちが島民の生活航路を支えている



申し入れ文書の内容を説明



※撮影のためソーシャルディスタンスに配慮の上、マスクをはずしていません

左から、宮川脩生尾道支部次長、梅谷美保子全国海友婦人会中国ブロック長、除補修中・四国地方支部長兼尾道支部長、高本訓司尾道市議会議長、山戸重治尾道市議会副議長

# 尾道市と尾道市議会へ 申し入れ

## 雇用と生活を確保する施策の 実施について

全国発信記事

尾道支部  
= 発信



※撮影のためソーシャルディスタンスに配慮の上、マスクをはずしていません

左から、梅谷美保子全国海友婦人会中国ブロック長、平谷祐宏尾道市長、除補修中・四国地方支部長兼尾道支部長、宮川脩生尾道支部次長

【宮川脩生通信員】尾道支部は12月14日、尾道市と尾道市議会へ、第83回定期全国大会決定事項に基づく申し入れを実施した。申し入れには除補修中・四国地方支部長兼尾道支部長と支部執行部、そして全国海友婦人会の梅谷美保子中国ブロック長が同行した。

尾道市への申し入れは、平谷祐宏市長に対応いただき、尾道市議会への申し入れは高本訓司議長と山戸重治副議長に対応いただいた。それぞれの申し入れの手交時には、除補修中・四国地方支部長から、昨今の船員を取り巻く環境を丁寧に説明することも、申し入れ項目の①住民税減免措置の実施②日本人船員の確保に向けた船員教育機関

船員数が減少していることは知っていたが、これほど少なくなっていることに驚いた。船員の実態を把握できた。奨学金制度をはじめ船員後継者確保に向けた組合の取り組みは素晴らしいと思う。住民税減免は、姉妹都市の今治市や近隣の上島町で住民税の減免が実施されていることはインパクトが大きいと思う。公平性の観点などの課題もあると思うが、尾道市においても条例などを含め一度精査する必要がある。

**尾道市議会**

尾道市議会は、尾道市と尾道市議会へ、第83回定期全国大会決定事項に基づく申し入れを実施した。申し入れには除補修中・四国地方支部長兼尾道支部長と支部執行部、そして全国海友婦人会の梅谷美保子中国ブロック長が同行した。

の維持・定員拡大③海上公共交通機関であるフェリー・旅客船への支援④本四架橋料金収受業務に従事する組合員の雇用と生活を確保する施策の実施 などについて、理解を求め、それぞれのご対応者から、考え方が示された。

**尾道市**

コロナ禍により市の観光分野は大きく打撃を受けており、旅客船会社も例外ではないと認識している。特に離島航路の維持については今後もしっかりと考えていかなければならない。住民税減免については、公平公正の観点から考えると直ちに減免の実施は難しいが、姉妹都市である今治市が実施していることは承知しており、比較検討していきたい。架橋収受業務設立の経緯については理解している。会社もコロナ禍による影響を受け厳しい経営となっていると聞いている。経営が維持できるように引き続き連携していきたい。



船霊祭のようす

# 羽幌沿海フェリー株式会社

## 社屋の神棚で 船霊祭・航海の安全を祈る

全国発信記事

道北支部  
= 発信



さんらいなあ2



おろろん2

羽幌沿海フェリー株式会社は、フェリー「おろろん2」と高速船「さんらいなあ2」の2隻を運航し、羽幌町から焼尻島へ天売島の航路を結ぶ離島航路で、島民の生活に欠かせないライフラインの航路として活躍している。

羽幌フェリーターミナルから焼尻島まで高速船で約35分、天売島までを所要時間約60分で結び、観光客にも欠かせない海上交通機関となっている。焼尻島は原生林に囲まれた静かな島で、周囲の海の透明度も高いダイビングスポットとして有名。天売島は、知る人ぞ知る海鳥の楽園で、かつてはオロロン島の繁殖地でもあった自然の宝庫。この2つの静かな島は、都会の喧騒を忘れさせる観光スポット

として、人気がある。2隻の船を運航する現場組合員も新たな年を迎え、帰省客や観光客が快適に船旅を楽しめるよう安全運航に努めている。1月11日には慣行行事である「船霊祭」が、羽幌沿海フェリーの社屋内神棚で行われ、舟橋泰博代表取締役社長をはじめ、乗組員たちが参列し、宮司による祝詞奏上の後、玉串奉奠を行い、航海の安全を祈った。





新造船 マルエーフェリー株式会社  
**琉球エクスプレス7**  
**就航**

全国発信記事

鹿児島  
支部  
= 発信



東京～名古屋～鹿児島(志布志港)  
**沖縄の海上物流を担う**

**船体要目表**

- ▼ 総トン数 || 13631トン
- ▼ 全長 || 190.9m
- ▼ 航海速度 || 22ノット
- ▼ 旅客定員 || 576人

【鶴田浩平通信員】昨年の12月8日、マルエーフェリー株式会社の新造RORORO船「琉球エクスプレス7」が東京～名古屋～鹿児島(志布志港)～沖縄航路に就航した。新造船の就航にあたり、一般見学会を各寄港地で行い、最新鋭のRORORO船を紹介した。

琉球エクスプレス7は、既存船に比べ大型化することで、貨物と乗用車・トレーラ

の積載能力が向上し、船舶の船型や船舶機器を改善することで、燃料消費量の低減を実現した。これから本州から沖縄への生活物資の安定供給と、南九州から関東向けの海上物流を担う。

また、船舶運航・性能管理を行う船陸間通信が導入されたことにより、燃費改善や更なる安全運航が期待されている。



沖縄県立沖縄水産高等学校  
**職場体験報告会**  
 本科2年生が県内の海運会社で  
**職場体験**

全国発信記事

沖縄支部  
= 発信

昨年の12月7日、沖縄県立沖縄水産高等学校において、職場体験報告会が開催された。この報告会は、本科2年生が県内の海運会社へ4日間程度の職場体験(インターンシップ)に参加し、その感想などを本科1年生と職場体験に協力した会社へ披露する場である。

今回は、実際に職場体験した生徒が報告会の資料を作成し、後輩の1年生と関係係業主へ、プロジェクトを使用して説明した。また、海上の職場を希望する生徒たちが、短期間の民間船舶の船員職業を体験し、どのように感じたのか、その体験を先輩たちの視点で、後輩たちに船員の魅力を伝えた。

報告会の発表は、3人から4人のグループに分かれ、職場体験した会社や船舶などの概要を報告。その後、1年生が2年生に質問をするという形で進められた。

先輩たちはグループごとに、パソコンで作成した資料の写真やイラストを使用し、丁寧な説明と感想を述べた。

1年生たちの主な質問は、▽船員の主な仕事・作業について▽乗組員の皆さんはどのような雰囲気です。▽後輩に何を伝えたいか。▽船員はどんな資格を持っているのか。など、さまざまな関心を示した。

最後に先輩から後輩へ、実際の船員の職場を経験した者としての視点で、船員職業や船の魅力を伝え、これから船員職業を目指す後輩たちの道しるべになる報告会となった。

**船員職業の体験を伝え、先輩が後輩の道しるべとなる**

2023年1月15日  
 中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

**第39期全国委員の資格喪失告示**

一、次の者は、規約第47条A項6号により全国委員資格を喪失したので告示する。  
 《地方区・地方単位》  
 02 東北 中野 宏俊

二、次の者は、規約第47条A項8号により全国委員資格を喪失したので告示する。  
 《企業区・企業単位》  
 012 石巻・塩釜地区組合員 齋藤 裕也

**第39期全国委員・補充選挙の告示**

規約第45条および全国委員選挙規則第25条に基づき、第39期全国委員補充選挙の実施について次のとおり告示する。

一、補充選挙を行う選挙単位と補充定員  
 《選挙単位コード・単位名》  
 企業単位 012 石巻・塩釜地区組合員 1名

二、補充選挙の実施日程  
 立候補届出期間 2023年1月15日より  
 2023年1月24日まで  
 候補者告示 2023年1月25日より  
 2023年1月25日まで  
 投票期間 2023年1月25日より  
 2023年2月4日まで

当選人告示 2023年2月25日(予定)

三、補充選挙の被選挙人  
 (1) 企業区  
 全国委員選挙規則第25条B項により、補充選挙告示日に補充選挙を行う企業単位に所属する完全資格組合員とする。

四、立候補の届け出  
 立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定める様式に基づき立候補届を担当地区選挙委員会へ提出する。

五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先  
 中央選挙委員会事務局(総務部)

以上

職業説明会のようす



# 職業説明会で 北海道函館水産高等学校 現役航海士が講師

全国発信記事

道南支部  
= 発信



実習船・若竹丸

函館山



【平田剛基通信員】昨年の12月9日、北海道函館水産高等学校において、職業説明会を行い、執行部と現役航海士、職場委員が講師として船員職業を紹介し、海上の職場への関心を深めた。

今回の説明会には海洋技術科1年生の生徒11人、機関工学科2年生の生徒1人の計12人が出席した。

はじめに松本順一北海道地方支部長(兼務道南支部長)が、本説明会の趣旨とあいさつを述べて、続いて津軽海峡フェリーの現役航海士が船員職業の説明を行った。次に津軽海峡フェリーと昭和日タンマリタイムの職場委員が、船内生活などの詳しい内容を説明した。

また、プロジェクトで「活躍する女性船員」を放映し、参加していた4人の女子生徒たちが関心を示した。

ひととおりの説明を終えた後、生徒たちから質問があり、実際に現場で働くときどのような資格を持っていれば役立つか、就職に有利な資格は何かなどについて、丁寧に説明し、理解を深めた。

最後に学校側より、船員職業を志す生徒が年々減少している実情を踏まえ、次年度以降も継続して講義を願いたいとの要請があり、内容の充実を図れるよう取り組みを確認し、説明会を終了した。

漁業ガイダンスのようす



## 神奈川県立海洋科学高等学校

# 漁業ガイダンスで 漁船漁業の魅力を伝える

全国発信記事

三崎支部  
= 発信

昨年の12月21日、神奈川県立海洋科学高等学校において、本科1年生5人、2年生4人の計9人が参加しての漁業ガイダンスが開催された。

参加した漁業会社は、遠洋マクロ延縄漁船、海外まき網漁船、遠洋トロール漁船、大中型まき網漁船、カニ籠漁船、捕鯨船、近海カツオ一本釣り漁船などで、漁業会社ごとのブースに分かれ、漁船漁業の特殊性や船内生活、航海日数などについて、配布資料やパソコンの映像をもとに、丁寧に説明し、生徒たちの関心を集めた。

出席した生徒からは、航海期間や必要な海技資格、船内生活や給料、インターネット環境などの質問があり、会社側も、関心を寄せる生徒たちに漁船漁業の魅力を伝えた。

# Pearl Harbor 海の彼方の戦争遺跡

尾辻弥寿雄・写真展



月刊誌「海員」の海員フォトギャラリーで選評を行って尾辻弥寿雄氏の写真展が、昨年の12月15日から21日までの間、新宿のアイデムフォトギャラリー「シリウス」で開催され、好評を博した。

今回の内容は写真集として出版され、長崎と真珠湾の関係をあとがきに寄せている。

「Pearl Harbor 海の彼方の戦争遺跡」から私にとって故郷長崎の夏の取材は、原爆記念日を中心としてすっかり恒例となっている。2019年の撮影は、目的の一つがハワイ、パールハーバーの真珠湾航空博物館に零戦と共に展示されている91式改良型魚雷(レプリカ)が長崎の三菱兵器製作所で製造されたものかどうかの確認であった。

2014年から始めたパールハーバーの撮影が、2020年以降世界的なコロナ禍のため、撮影に行けなくなったのは大いに心残りである。

あった。「三菱重工業長崎造船所史料館」には、「戦艦武蔵」をはじめ長崎造船所で建造された大日本帝国海軍の軍艦群が史料として展示されている。その一角に91式改良型魚雷が展示されていた。

1941年12月7日(現地時間)に、日本軍は真珠湾に停泊していたアメリカ太平洋艦隊を急襲、そのとき日本軍が使用した爆弾の一つが91式改良型魚雷である。この魚雷で戦艦オクラホマをはじめ8隻が轟沈大破している。

真珠湾航空博物館の展示品は実物大ではあるがレプリカのためリアリティーを感じなかった。しかし、「三菱史料館」にある魚雷は三菱長崎兵器製作所で製造された約9000本のうちのひとつで、1997年に沖縄県豊見城村

で発見された実物である。靖止めでコーティングされているが、鉄の質感は圧倒的な存在感で禍々しさを感じるのがある。まさにパールハーバーで多くの軍艦を大破轟沈させた戦争道具であった。この魚雷の改良の成功が、水深12メートルという浅い真珠湾に停泊する艦船の攻撃を遂行する要因の一つとなったという。

魚雷を製造した三菱兵器製作所の存在がその後の長崎への原爆投下へと進んでいく。長崎の街の片隅には三菱兵器製作所の敷地を示す石柱が歴史を証言するかのようにも立っている。

# 福島汽船株式会社 続く物価高 賃上げで 生活を守ろう!

大衆討議  
小名浜  
支部  
= 発信



小名浜港



# 物価高に負けない 大幅な賃上げを期待

大衆討議  
関東地方  
支部  
= 発信



曙丸(東福汽船株式会社)



東進丸(トビー海運株式会社)

小名浜支部は1月10日、小名浜港で福島汽船株式会社のタグボート「吾妻丸」を訪れ、令和5年度港湾部門労働協約改定要求案の大衆討議を行った。執行部から、令和5年度港湾部門労働協約改定要求案を説明し、船内の意見集約を行った。

**主な船内意見**

- ▽物価が上がっているので、ペーパー要求を表現してほしい。
- ▽個別要求の諸手当も改善してほしい。

**要求案の骨子について**

- ①有効期間(令和5年4月1日より令和6年3月31日までとする)
- ②定年と退職年齢  
公的年金支給開始年齢の動向を踏まえ、定年年齢もしくは退職年齢の延長要求を行う。ただし、労働基準法適用会

社は、高齢者雇用安定法改正に伴う産別指針を基本に、定年延長もしくは継続雇用制度を構築し実施する。

③休日

- ・国民の祝日増加に伴い、年間休日数が増加が図られていない会社は、引き続き取り組む。
- ・現行休日で土曜日が休日として確保していない会社は引き続き取り組む。また、休日休暇の完全消化に必要な要員計画の策定に取り組む。
- ・特別休暇において、祖父母の取り扱いおよび出産休暇が確保していない会社は引き続き取り組むこととし、日数については支部判断とする。
- ④賃金・諸手当

・港湾船モデル協約の職別基本給を次の通り改定する。ただし、モデル協約の水準に達していない会社については、支部判断で対処する。

- ・諸手当については、地域事情を勘案し支部判断とする。
- ※基本給の改定については、賃金改定要求率を3%とし、港湾船モデル協約における員級の初任額を3%(4930円)引き上げることとした。
- また、各職の初任額については、各職の初任係数を用いて、各職初任額を改善する要求としている。
- ※後述・特殊船については、港湾船と同様に賃金改定要求率を3%として、部員初任額(満18歳未経験者)を改善することとし、その他各職については、各社における賃金体系が多様な実態を鑑み、関係部門の要求基準を参考に業種・地域事情を勘案のうえ、支部判断により要求を行う。



小名浜港

とがち(近郵船舶管理株式会社)



**曙光丸**  
東福汽船株式会社  
◆名古屋港で訪船

**主な船内意見**

- ▽賃金改善のため交渉を粘り強く頑張してほしい。
- ▽入港場所によっては、上陸する時間が少なく、買い出しに行ける程度しかない。リフレッシュや働き方改革の一貫として娯楽の改善について検討してほしい。
- ▽3月からの中央交渉の経緯については、これまで同様周知してほしい。また、妥結後の訪船も継続して実施してもらいたい。

**東進丸**  
トビー海運株式会社  
◆川崎港で訪船

**主な船内意見**

- ▽昨年から高騰している生活用品の品目が多くなっており、非常に厳しい現状である。今年度は大きな賃金改定をお願いしたい。
- ▽関東圏に入港があれば、今後もいつでも訪船して意見交換を行いたい。

**とがち**  
近郵船舶管理株式会社  
◆敦賀港で訪船

**主な船内意見**

- ▽要求を賃金のみならず、新しい設備の改善をお願いしたい。
- ▽要求を賃金のみならず、大幅な改定を期待する。



名古屋港



川崎港

安全祈願のようす



1月11日、流水観光砕氷船「おーろら」を運航している道東観光開発株式会社では、道の駅「流水街道網走」構内で、新造船「おーろら3」の安全祈願祭を執り行った。これは新造船の1月20日からの運航開始に向けて、航海安全を祈願するもので、祈願祭の後、「おーろら3」のお披露目と試乗会が行われた。

道東観光開発の高橋晃社長は、お披露目のあいさつで「厳しい時期を乗り越えてきた中で、おーろら3は観光復活の想いを込めて、外装は自然・再生を意味するエメラルドグリーンと、乗船してくださるお客さまや地域の皆さまの幸福を祈念するオレンジの2色のカラーを決めた」と、船体カラーの由来を説明した。

中村忠義船長は「おーろら3」就航に際し「従来から安全対策を徹底しており、おーろら3就航についても、安全で安心できる運航に努めますので、流水を楽しんで良い思い出をお土産にさせていただきたいと思っています」と語った。

一方、流水観光砕氷船「おーろら」は、冬季観光の主力であり、船体の重さを活かして流水を押し割り進む豪快さが特徴。砕ける流水を体感できるほか、野生動物も観察できる素晴らしい観光船として人気を集めている。過去3年間はコロナ禍の影響を受け厳し

い状況であったが、今季シーズンは予約状況も徐々に回復し、コロナ禍前の8割まで戻ってきている。現場では旅客の安全対策を徹底し、流水観光シーズンを期待している。

4月28日からは知床観光船の運航を予定しており、中村船長は「観光客が安心して観光を楽しめるよう安全対策を徹底しており、2隻のそれぞれの特徴を活かし、大型船

『おーろら』では、ゆっくりとした船旅で知床岬を楽しんでほしい。『おーろら3』では速力、海面の近さ、熊や滝など、一味違う大自然の知床を体感してほしい」と語った。

道東観光開発株式会社

新造船・おーろら3  
安全祈願祭&お披露目

全国発信記事

道東支部  
= 発信

おーろら3



新造船「おーろら3」は、会社初の小型旅客船の就航となり、これまで大型船「おーろら」と「おーろら2」で運航していた遊覧観光について、旅客の要望などを社内にて検討した結果、小型船の運航を合わせての相乗効果を期待するものとなった。

船体の外板はアルミ軽合金で建造され、流水帯が陸から離れているときに流水まで近づき流水観光を楽しめるほか、水中ドローンで海中から流水や生物も楽しめるよう準備している。

今季は予約を受け付けず当日客のみ受け入れ、安全確保の観点から冬季旅客定員は24名に制限し、法定備品の救命浮器に加え救命いかだを搭載し安全対策を向上させた。

世界遺産(自然遺産)知床半島の海と  
冬季の網走流水観光

道の駅・流水街道網走



中村忠義船長



冬の流水観光



夏の知床半島

